

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから								
小事業	06	食生活改善業務		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	健康寿命の延伸のためには、生活習慣病の発症予防・重症化予防が重要である。心疾患や脳血管疾患の要因である肥満及び高血圧や脂質異常症の発症・重症化を予防するためには、食塩の過剰摂取の抑制や、野菜摂取の増加等の食生活の改善が必要である。食生活改善の普及のためには行政による活動には限りがあり、地域に根差した地域住民と共に普及啓発を進める必要がある。				
	事業目的	(1) 対象 市民、栄養教室受講者、食生活改善推進員、市民 (2) 目的 ・地域における食生活改善の担い手(食生活改善推進員)を養成する ・食生活改善による健康の維持増進・疾病予防				
	事業概要	市民への野菜摂取促進や減塩をはじめとする食生活改善に関する普及啓発を行うことにより、食生活を見直し改善を行うことで、健康づくりや疾病予防が自らできる市民を増やすもの。 ・食生活改善推進員養成講座(栄養教室)の開催 ・食生活改善推進員による普及啓発 ・市内飲食店等の健康づくり応援店登録による普及啓発				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	638	675	471	380	506
	決算額	172	432	340	359	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	1,108 / 200				

アウト プ ット	活動指標(単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	食生活改善推進員地区伝達講習 開催回数(回)	目標値	170	175	175	150	150
		実績値	16	72	131	142	

アウト カ ム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	朝食を週4回以上食べる人割合 [特定健診問診17(全受診者データ)](%)	目標値	95.5	95.7	95.7	95.7	95.7
		実績値	94.7	94.5	94	93.9	



実 績	実績	栄養教室参加者 8人 次年度食生活改善推進協議会加入者数 5人 食生活改善連絡協議会 会員数 49人 食生活改善推進員地区伝達講習開催 142回
	効果	食生活改善について普及し、生活習慣病の発症予防・重症化予防し、心疾患や脳血管疾患の要因である肥満及び高血圧や脂質異常症の発症・重症化を防いだ。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	開催回数は、団体等からの出前講座等の依頼状況により変動するが、令和2年度に新型コロナウイルス感染症流行の影響によって減少した以降、年々増加してきているものの、足りきっていない。周知が不足しており、さらなる周知が必要である。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	やや減少傾向である。特に40～50歳代の若い世代への働きかけが必要であるが、実施できていない。
	実績からR06年度の事業の方向性	食生活改善連絡協議会の会員数が維持できるよう、栄養教室を継続して実施する。食塩の過剰摂取の抑制や、野菜摂取の増加について、各種機会を通じて啓発を継続する。20～50歳代の若い世代への働きかけを強化し、乳幼児健診受診者の保護者自身への啓発、市公式LINEやすぐメールを活用した啓発等を実施する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課	
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費	01	保健衛生総務費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから							
小事業	07	健康づくり事業		目標年度	令和6年度					



イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	健康寿命の延伸のためには、生活習慣病の発症・重症化予防が重要である。生活習慣病の予防のためには、食生活・運動・喫煙・飲酒・歯と口腔など、さまざまな視点やアプローチにより、生活改善につなげることが必要である。 また、こころの不調を持つ者も多く、毎年市内で10人程度の自殺者数があることから、不調に対して自分や周りの人が早期に気づき適切な時期に相談や受診ができるよう、知識の普及や相談の体制整備を図る必要がある。				
	事業目的	(1) 対象 市民、生活習慣病の発症・重症化のリスクが高い人等 (2) 目的 市民の健康意識の向上、健康増進の取組の開始・強化 健康寿命の延伸、医療費の削減				
	事業概要	市民の健康意識を高めることにより、健康づくりを実践し、生活習慣病等の発症や重症化の予防、こころの健康づくり・自殺予防を図るもの。 ・こころの健康づくり・自殺対策事業 ・各種健康教室、健康相談、家庭訪問 ・糖尿病重症化予防プログラム ・ICTウォーク(アプリ)事業 等				
	事業費(千円)	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	10,211	8,121	12,388	9,105	4,316
	決算額	3,254	4,987	9,581	8,726	
	年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)	7,053 / 449				



アウト プット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	各種健康教育利用者数(人) (精神保健含む)	目標値	10000	10000	1500	1500	2000
		実績値	560	1450	1333	1444	



アウトカム	K P I (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	特定健診メタボリックシンドローム該当者の割合 (%) 減少	目標値	12.5	12.2	17.5	17.4	17.3
		実績値	16.6	17.8	17.7	18.1	

実
績



評
価
分
析

実 績	・健康教育(精神保健以外)延39回 ・健康相談(健康増進事業) ・S O S 出し方教育(小中学校) ・ゲートキーパー養成講座 ・がん患者医療用補正具購入助成 ・健康増進計画・自殺対策計画策定 延 788人 延2,109人 2,386人 117人 20人
効 果	各種健康相談、教室等を通じて、生活改善につなげ、生活習慣病の発症・重症化予防につなげた。 こころの健康、自殺対策に関して、相談や啓発等を通じて、適切な時期に相談や受診ができるよう、知識の普及や相談の体制整備を図った。

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	各種健康教育を計画通りに実施し、目標を達成した。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	特定健診受診者のうち、メタボリックシンドローム該当者が増加している。受診者のうち、特定保健指導該当者への指導実施率が低い状況にあるが、積極的に利用勧奨するためのマンパワーが不足している。
実績からR06年度の 事業の方向性	健康教育については、新たにLINEの活用、ターゲットを絞った勧奨通知の実施等により、周知を強化し、多くの参加者が得られるようにする。引き続きウォーキングの実施を推進するが、ウォーキングアプリ「aruku & みのかも版」は廃止し、岐阜県健康・清流ポイント事業アプリの活用を促進するほか、新たにウォーキングコースの集約・マップ作成による情報提供を行う。 精神保健・自殺対策については、引き続き関係部署・機関との連携を強化し、連携した支援を継続する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから								
小事業	12	健康データ調査分析事業（定住）		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康課題を十分に把握したうえで、保健事業を企画することができていない。 ・既存の健康事業について、その効果等について、評価・分析が十分にできていない。 ・健康に関して様々なデータを有するが、有効に活用できていない。 ・住民対象に行う調査は、健康のみならず様々な分野で実施しているが、調査結果を十分に活用できていない。 ・職員のデータ分析・評価に関する知識・技術が不十分である。 				
	事業目的	(１)対象 圏域市町村の職員 (２)目的 ・地域の健康に関するデータを分析することにより、根拠のある事業展開ができるようにする。 ・根拠のある効果的な事業展開により、圏域住民の健康寿命延伸につなげる。 ・データを分析・活用する技術力を身に付けた職員を増やすことで、継続的にデータ活用ができるようにする。				
	事業概要	既存のデータを活用し、圏域の健康課題を抽出する。それを基に健康意識調査（ウェブアンケート）を実施し、データの集計・分析を実施。分析結果を活用した保健事業を展開する。また、保健の専門分野の講師による研修を実施し、調査から分析に至るまでの技術を学び、継続的にデータを活用していける職員を育成していく。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額		156	156	174	96
	決算額		78	156	117	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	40 / 0				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	データ分析を活用した実施事業数	目標値			2	2
		実績値			0	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	自分は健康であると思う人の割合	目標値			86	87
		実績値			76.1	



実 績	実績	<ul style="list-style-type: none"> ・研修会実施 3回（R5年度健康データ調査分析研修） 第1回：10/10（美濃加茂市保健センター）市4人、東白川村2人 第2回：2/16（美濃加茂市保健センター）市2人、東白川村0人 第3回：3/27（美濃加茂市保健センター）市2人、東白川村1人 ・データを活用した実施事業数 0回
	効果	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が、データの整理の方法、集計・分析方法に関する知識・技術を習得した。 ・分析を実施するためのデータ整理の方法（変数対応法表の作成） ・過去のデータとリンクさせ仮説を立てる方法 ・2時点比較の方法



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は、研修を3回実施し、令和4年に実施した「美濃加茂市健康意識調査」の調査結果データを元に、データの整理の方法、集計・分析方法を実践を通じて学んだ。 ・手法は学んだものの、分析を実施する時間の確保が困難であったため、十分な分析には至っておらず、事業に活かせるようなデータ分析結果を得ることができていないため、データ分析を活用した事業を実施することはできなかった。 ・R4年度に実施した、健康意識調査の回答データについて、研修講師と共に、データ整理をし、各地区別のデータ集計・分析を一地区区分のみ実施した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	<ul style="list-style-type: none"> ・美濃加茂市令和5年度市民満足度調査において、「自分の健康状態について、どのように感じていますか」の設問に対し、回答者681人のうち6.3%が「非常に健康である」、69.8%が「まあまあ健康である」と回答した。 ・本事業の実施により短期間で「自分は健康であると思う人の割合」を高めることは困難であるが、今後事業を通じて効果的な健康に関する事業を実施していくことで、長期的に成果を把握する必要がある。
	実績からR06年度の 事業の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年までは、美濃加茂市のデータのみを使用しているため、令和6年度については東白川村のデータも活用する。美濃加茂市・東白川村は、比較分析できる共通の調査は実施していないため、各市村毎にデータ分析し、その結果を両方で共有する。 ・美濃加茂市は、各地区別の健康課題を見つけ、既存の健康教育事業の2教室においてその結果を講義・資料に取り入れ、市民に周知・啓発する。 ・データ分析した結果を、保健事業内、広報誌等で市民に公表する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		03	健康増進費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから								
小事業	14	ヘルステック健康まちづくり事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	美濃加茂市は特定健診（メタボ健診）受診率が低く、健康状態の不明の人が多い。 （特定健診受診率 当市31.6%、県内では36位） また、県と比べてメタボ予備軍の割合が高く、健康に対する意識の低い人が多い。 （メタボ予備軍割合 当市18.1%、県10.3%、国6.1%） 健康寿命については県・国より高いながら、平均寿命と健康寿命の差（不健康な期間）が長い。 入院患者のうち心臓病や糖尿病罹患者が多く、医療費の高騰を招く一因となっている。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 市民（特に40代、50代） （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 「運動」「食」「予防医療」「テクノロジー」が一体となった健康づくりの提供による、糖尿病や心疾患等の予防が重要となる世代の健康意識の向上と生活習慣改善の促進により、健康診断の受診率向上と健康寿命の延伸が図られる。				
	事業概要	みのかも健康プラザ内に開設したみのかもヘルステックセンターにおいて、市民の健康情報・医療情報を収集・集積し、それらの分析結果に基づいて市民の健康増進に資するプログラムを提供するとともに、ヘルステックセンターそのものを健康に関する市民のワンストップ窓口として運用する。 また、ヘルステックセンター活用の一環としてクアオルト健康ウォーキングを導入し、分析結果と連動した健康増進プログラムとして活用することで、市民のP H R 収集・集積を促進するとともに健康意識の向上を図る。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額		8,402	27,472	12,658	4,465
	決算額		8,353	5,461	3,204	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	705 / 179				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	市民への周知（広報等）（回）	目標値				12	12
		実績値				12	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	ヘルステックセンター利用者数（人）	目標値				3000	3000
		実績値				743	



実 績	実績	クアオルト健康ウォーキング事業開始 クアオルト参加者数：198人 ヘルステックセンター利用者数：743人
	効果	健康課でのイベント時や健診時にヘルステックセンターの設備を活用し数値化された情報を実際に目にすることで、市民が自身の体の状態に興味を持つきっかけとなった。イベント時には体組成計等の常設の機材に併せて様々な測定器を設置することで骨密度や野菜の接種量等、市民の健康に直結した気になる情報を提供することができた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	月々のイベント（クアオルト10回、健活ウォーク2回）を広報誌やHPに掲載し、ヘルステックセンターを併用することで、ヘルステックセンター活用を推進した。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	現在ヘルステックセンターは職員が常駐しておらず、利用した方に記名等をお願いしているがそれも任意であるため、定期的に利用している人がいたとしても人数把握ができないのが現状である。
	実績からR06年度の 事業の方向性	R6年度後期からヘルステックセンターの一部を事務室として活用し、同時に利用の勧奨と利用者の管理を行うことを検討しているため、利用者数は増加する見込み。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	A1	6つのまちづくり宣言	健康増進	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		01	保健衛生総務費
		目指す姿	生涯健康で、元気に生きる！	K P I	健康寿命の延伸 健康増進に積極的に取り組んでいる人の割合				目標値	(男性)81.00歳(女性)86.00歳 70.0%	
中事業	01	主要な取り組み	まず一歩、健康はウォーキングから								
小事業	15	健康啓発活動等支援事業		目標年度	令和6年度						

イン
プ
ット

事業実施の 背景にある課題	市民の健康意識向上による生活習慣改善と輸血・ドナー等医療資源の充実及び健康維持・医療資源確保に係る活動団体等への支援は必須である。特に献血事業は、新型コロナウイルスの影響もあり、まだまだ、新型コロナウイルス感染症の影響により、献血へご協力いただける個人・企業・団体様が不足しており、献血による輸血用血液の確保に大変苦慮している。					
事業目的	(１)対象(誰、何を対象にしていますか) 市民及び各種団体 (２)目的(事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか) 市民の健康意識向上による生活習慣改善と輸血・ドナー等医療資源の充実及び健康維持・医療資源確保に係る活動団体等の活性化が図られる。					
事業概要	市民に対して健康意識啓発を行うとともに、健康維持、献血・骨髄移植などの医療資源確保に係る活動を行う団体等に対して支援を行うもの。 ・献血活動に対する支援 ・骨髄移植ドナーに対する助成 ・岐阜県シン・アイバンク協会等各種団体負担金及び補助金の交付					
事業費(千円)		R02	R03	R04	R05	R06
	予算額			1,020	813	798
	決算額			419	423	
年間の事業に要する時間 (正職員/正職員以外)		383 /			194	

アウト プ ット	活 動 指 標 (単位)		R02	R03	R04	R05	R06
	献血事業協力回数	目標値			35	35	35
		実績値			35	32	

アウト カ ム	K P I (単位)	R02	R03	R04	R05	R06
	献血者数	目標値		1050	1100	1150
	実績値		1159	1170	1095	



実
績

実 績	・岐阜県アイバンク・臓器移植推進財団等各種団体負担金及び補助金の交付 ・献血事業実施(実施回数:32回、献血者数:1095人)
効 果	H P、すぐメール、M B等でこまめに周知し、目標値に近い人数の方に献血に協力していただいた。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	岐阜日赤との調整により令和5年度の実施回数が前年度から若干減少した。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	特に若い世代の献血協力者数が減少している。
実績からR06年度の 事業の方向性	献血への参加は強制ではないため、新規採用職員に声をかけて献血事業に興味を持ってもらうことから始める。 実施の際には適切な周知を行う。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		02	母子衛生費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間）					目標値	500人
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て		女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合						40.0%
小事業	02	妊産婦健康診査事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	妊産婦が健康を損なうことで出産リスクが上がり、妊産婦や新生児、その家族の経済的、精神的な負担にもなる。 先天性難聴は言葉やコミュニケーションの発達に影響を及ぼすため、早期の治療、支援が必要になる。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 妊婦健康診査・妊婦歯科健康診査：妊婦 産婦健康診査：産婦 新生児聴覚検査：新生児 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 妊婦健康診査及び妊婦歯科健康診査の適正受診により、母体が保護され、健全な妊娠・出産につながる。 産婦健康診査の適正受診により、母体が保護され、健全な産後につながる。 新生児聴覚検査の適正受診により、新生児の先天性難聴などの異常を早期発見し適切な指導につなげる。				
	事業概要	妊婦健康診査：母子健康手帳交付時に妊婦に対し健康診査受診票を交付し、受診勧奨することで、妊婦の健康管理及び健全な妊娠・出産を支援する。 妊婦歯科健康診査：出産を迎える妊婦に対し、妊娠期における歯科の健康管理を行う。 産婦健康診査：母子健康手帳交付時に妊婦に対し健康診査受診票を交付し、産後の適切な時期に受診勧奨することで、産婦の健康管理及び健全な産後を支援する。 新生児聴覚検査：母子健康手帳交付時に妊婦に対し聴覚検査受診票を交付し、出生後の適切な時期に受診勧奨することで、新生児の先天性難聴などの異常を早期発見する。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	68,967	67,498	71,741	62,997	61,159
	決算額	59,133	58,923	56,263	53,794	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,054 / 5,980				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	妊婦健康診査受診票利用枚数	目標値				5000	5000
		実績値				5078	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	妊婦健康診査受診率（％）	目標値				75	75
		実績値				85.5	



実
績

実績	妊婦健康診査受診票交付者数438人（母子手帳交付400人＋転入者38人） 受診票利用枚数5,078枚／受診票交付枚数5,942枚 妊婦歯科健康診査票交付 431人 受診者：161人 産婦健康診査票交付 876枚（438人×2枚） 使用枚数：693枚 保険適用に伴い不妊治療助成は廃止
効果	妊婦健康診査及び妊婦歯科健康診査の適正受診により、母体が保護され、健全な妊娠・出産につながった。



評
価
分
析

活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	母子健康手帳交付時の個別面談による丁寧な説明を実施したため。また、妊娠8か月児のマタニティアンケートやコールによる伴奏型支援を実施したため。
K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	母子健康手帳交付時の個別面談による丁寧な説明を実施したため。また、妊娠8か月児のマタニティアンケートやコールによる伴奏型支援を実施したため。
実績からR06年度の事業の方向性	妊婦健診の基本項目を網羅した内容のため、同様の健診助成を実施する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		02	母子衛生費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	03	乳幼児健康診査事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	乳幼児の健診（１歳６カ月児健康診査、３歳児健康診査）は母子保護法に定められた市町村の義務であるが、市が独自で実施する乳児健康診査を含め、保護者の都合などにより健診に来所しない、できない乳幼児も存在する。 乳幼児の身体的・精神的疾患の発見と心身の成長発達確認が遅れることにより、適切な治療や指導が遅れ、保護者の精神的、経済的負担が増大する恐れがある。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 各対象年齢の乳幼児 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるのか） 乳幼児健診で児の健康状態や成長発達確認を行うことにより、疾病や発達の遅れ等の早期発見・早期対応（治療や療育）ができる。				
	事業概要	母子保健法に基づき、各種乳幼児健康診査を実施 母子保健推進員による受診勧奨 乳幼児健康診査 乳児健康診査（年１８回）、１歳６カ月児健康診査（年１８回）、３歳児健康診査（年１８回）において、身体的・精神的疾患の早期発見と心身の成長発達を確認し、健全な成長発達を促す。また、育児に関する情報提供を行う。 おむつ等配送業務 乳児健康診査と１歳６カ月児健康診査の受診時におむつ等の注文を受け付け、配送を行う。				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	8,650	9,626	5,087	11,140	10,034
	決算額	6,892	6,836	4,419	8,302	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	1,253 / 4,934				

アウト プ ット	活動指標（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	未受診者の把握率（％）	目標値			95	97
		実績値			97.1	

アウト カ ム	K P I（単位）	R02	R03	R04	R05	R06
	健診受診率（％） （乳児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診）	目標値	99	99	99	99
		実績値	98.9	99	98	98.1



実 績	実績	乳児健診 411/430人 95.6% 1歳6か月児健診 451/466人 96.8% 3歳健診 500/505人 99.0% おむつ配送人数 797/861人 92.6%			
	効果	乳幼児の発達の節目において健診を受けてもらうことで、子どもの健やかな成長発達を支援することにつながった。また、保護者の育児不安の軽減に寄与した。			



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	受診率はほぼ維持できている。 継続的な受診勧奨が実施できており、受診者にも一定の意義を感じてもらえていると考える。 未受診者に対しては、日時を変えて夜間を含めた訪問などを実施したため、高い把握率となった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	未受診者の中には障がいや疾病のためかかりつけ医に受診している場合があり、そのような対象者を母数から除き調整することが必要だが、実施していない。
	実績からR06年度の 事業の方向性	障がいや疾病等のため、かかりつけ医に受診している場合は、受診対象者の母数から除き調整する。

令和５年度 事業評価書

会計区分	01	一般会計					事業主体	17100000	健康こども 健康課		
大事業	B1	6つのまちづくり宣言	女性若者活躍	款項目	04	衛生費	01	保健衛生費		02	母子衛生費
		目指す姿	女性や若者が輝き、スポットライトが当たるまち！	K P I	生まれる赤ちゃんの人数（年間） 女性や若者が夢をかなえられるまちだと感じられる人の割合				目標値	500人 40.0%	
中事業	01	主要な取り組み	みんなにやさしく、楽しく子育て								
小事業	04	妊娠期からの支援事業		目標年度	令和6年度						

イン プ ット	事業実施の 背景にある課題	核家族化やSNSの普及等により、保護者、特に母親が身近に子育てについて共に悩み、相談できる人が少なくなっている。また、SNS等に流れる雑多な情報を得てしまうことで、自分の子育てに自信がない等の精神的な悩みを持つ人が多くなっている。				
	事業目的	（１）対象（誰、何を対象にしていますか） 妊産婦、妊産婦の夫・パートナー・家族、乳幼児、対象月齢者、要支援者等 （２）目的（事業を行う事で、解決すべき課題がどのように改善されるか） 子育て世代包括支援センターの運営、あじさい子育てひろばの運営、各種相談事業、訪問の実施など子育て支援環境を充実させることで、妊産婦の出産・育児に対する不安を軽減する。				
	事業概要	保健師を始めとする専門スタッフが、妊娠・出産・子育て期を通じて切れ目のない支援を展開する。 各種事業を通じて、正しい知識の普及を図り、安心して育児ができる環境を整える。相談や訪問、教室に参加することで育児等に関する不安の軽減を図り、仲間作りの場を提供する。 電子母子手帳を活用し、子育て情報を発信。 【主な事業】 あじさい子育てひろば 育児相談 1歳児相談 乳児訪問 もうすぐパパママ教室 マタニティクラス 食育教室 なかよし教室 すくすく発達教室				
	事業費（千円）	R02	R03	R04	R05	R06
	予算額	9,005	9,489	9,500	8,567	8,232
	決算額	7,061	5,850	5,899	7,373	
	年間の事業に要する時間 （正職員/正職員以外）	6,263 / 15,787				

アウト プ ット	活動指標（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	あじさい子育てひろばの利用周知の場	目標値				8	9
		実績値				15	

アウト カ ム	K P I（単位）		R02	R03	R04	R05	R06
	あじさい子育てひろばの利用者数（人）	目標値				1200	1200
		実績値				1229	



実 績	実績	母子保健教室・相談事業利用 1,624人 あじさい子育てひろば 1,229人
	効果	助産師や保健師等と直接相談ができることで精神的な安定につながり、育児の自身へもつながる。自宅以外の場で親子で過ごすことで、子どもの成長発達の確認や他の利用者との交流ができ、それらを通して育児の方法を見つめ直し、考える機会につなげる等、子どもの健全な成長発達を促進できた。



評 価 分 析	活動指標分析 目標値の達成 ・未達成要因	すべての乳幼児健診・相談会・教室・訪問などの機会をとらえ、継続的な成長発達段階を通じた周知につながった。
	K P I 分析 目標値の達成 ・未達成要因	出生数の減少と職場復帰する母親の増加などで、利用者の増加は限界があると思われるが、継続的な周知を実施したことと新型コロナウイルス感染症の第5類への移行に伴い、利用者数の増加につながったと思われる。
	実績からR06年度の 事業の方向性	乳幼児健診、相談事業、教室、訪問において周知する。